



ものづくり技術

15

平成 27 年度
補助事業

車載用高精度カメラケーブルの 新規開発による競争力強化

課題 *Issue*

評価試験の時間・費用面で
ロスを軽減したい

自社開発製品の信頼性を高め、品質の向上および質の高い製品を継続して市場に提供するため、自社製品の品質を評価する品質評価試験を実施しています。今までその都度外部委託しており、借用先の設備の空き状況に左右され、試験実施までの時間が不透明でした。それにより、客先に提案・報告できる時期が読めず、製品化までの時間がかかりました。また、試験費用も膨大で、試験時間によっても異なりますが、自社で試験実施の場合は電気代のみで済むところ、外部設備借用時は1製品あたり約90万円必要でした。このように、設備を所持していないために積極的な自社開発もできずにいました。

実施内容 *Measures*

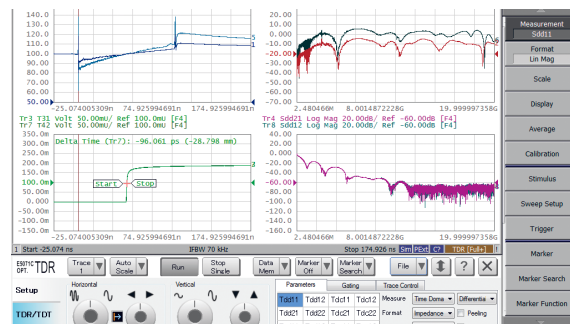
高周波測定機を導入し
従来設備と比較

ワイヤーハーネス・ケーブルの端末加工を行い、種々の機器間接続を目的とする製品の製造をしています。中でも車載用ケーブルは、現在、バックモニターなどのリアビューカメラケーブルが主流ですが、安全性向上の流れから、車載用カメラはリアカメラにとどまらず、車の前方左右や運転席・助手席などにも取り付けられ、車の周囲をモニター、ひいては自動走行装置へ応用できるカメラなど、その用途は広がっています。今回、高周波測定器（ネットワークアナライザー）の導入により、高精度カメラケーブルの高周波における伝送特性測定が可能かどうかの検証を実施しました。

成果 *Results*

高周波計測対応と
高精度化対応が可能に

借用先の設備の空き状況に左右されず「高周波試験」が実施できるようになったため、打合せ・段取り時間が、これまで（設備導入前）は1週間から数か月かかっていたものが必要なくなり、大幅に時間短縮（1週間～数か月）できました。費用面でもこれまで外部設備借用代がかかっていたのが、当社内の電気代のみを抑えられる見込みになり、性能不十分である場合には、すぐに中断・分析の対応ができ、再試験が最小限の費用で可能になります。また、設計に関する情報管理を徹底でき、機密情報漏洩のリスク排除ができるなど、多くのメリットも出てきました。



今後の展望 *Future outlook*

メイド・イン・福島を新規開発して意欲的にアピール

車載用カメラケーブルの用途は拡大する流れにあり、それらの画像等の通信は、より高速化・高精度化と変化してきており、今後もますます、軽薄短小化、高密度化、高周波対応化、複合連携化が求められると考えられます。今回、高周波測定器一式（ネットワークアナライザー）を導入したことにより、積極的に車載用カメラケーブルの新規部品の開発を行い、独自に評価分析することで自社開発製品の信頼性を高め、品質の向上および質の高い製品を継続して市場に提供できます。自社での評価試験が増え、性能や評価に関するデータやノウハウを蓄積して顧客に新たな技術を提案することもできます。これは試験時間短縮による納期短縮にもつながります。顧客から信頼を得ることで優位性を保持し、競合企業との差別化を図れるものと期待しています。



川俣工場

会社概要 *Company introduction*

アサヒ通信 株式会社

〒960-8031 福島県福島市栄町 12-21
TEL.024-524-2111 FAX. 024-523-3210

●代表者 代表取締役社長 - 菅野高延 ●設立 昭和 44 年 11 月
●資本金 2 億 2,000 万円 ●従業員 170 名
●URL <https://www.asahi-gp.co.jp/tsushin/>



代表取締役社長 菅野高延